

平成25年度 品川の明日を語り合う「区長とのタウンミーティング」議事録

- 開催日時 平成25年8月31日（土）午前10時～正午
- 開催場所 八潮地域センター レクホール
- 参加人数 31人
- 区出席者 濱野区長、桑村部長、黒田長期計画担当課長
- 司会進行 荒井広報広聴課長
- 内 容 意見交換
 - 1 歩道拡幅に伴う横断歩道、信号機の設置について
 - 2 八潮交番前の歩道の改善、コミュニティバスの運行について
 - 3 こみゆにていぷらざ八潮におけるフリーマーケット用倉庫、八潮リボンの設置、託児室・ラウンジ間の部屋の有効活用、およびコミュニティバスの運行について
 - 4 旧八潮南中学校跡特別養護老人ホームのグラウンドの利用、ダイエー撤退後の施設について
 - 5 シルバーセンターの設置について
 - 6 トレーニング施設の設置について
 - 7 在宅避難八潮モデルの構築について
 - 8 八潮学園体育館のカーテンについて意見交換（再質問等）
 - 1 こみゆにていぷらざを管轄する部署について
 - 2 シルバーセンター関連について
 - 3 ダイエー撤退後の施設について

意見交換

◆区民 A

歩道拡幅に伴う横断歩道、信号機の設置について

30年前、建設当時は歩車道分離という形で建設された八潮団地だが、この20年、この八潮団地の中に福祉施設も増えており、八潮地区内の歩道の拡幅の工事が決定されたことは、ちょうどいいタイミングであった。ただ、当初、立体交差でこの団地が建設されており、歩道が拡幅ということになると、平面交差ということになってくるかと思う。平面交差になったときに、横断歩道の数、信号の数を、適切に増やしていく計画もお願いできたらと思っている。

また、23日の工事の説明会のときに、東側の高速道路側のスピードを抑えるための波打った道路を改修し、建設当時のフラットな道路にするという説明をいただいた。そうすると、直線で車がスピードを出すということにもなりかねない。あの辺も中間に信号が1つあるとスピードの抑制になるかと思っているので、あわせて検討いただくようお願いしたい。

1 区長コメント

八潮パークタウンの建物の周りの道路などは東京都、UR都市機構、東京都住宅供給公社などの組織が持っており、品川区の力だけでは何ともなりません。そうした組織と調整しながら、一朝一夕にはできませんが、中期的にいわゆる歩車分離の立体的なまちというものを改造していくことが必要だと思っています。

信号のお話については現在のところ白紙の状態ですが、これからも技術的な問題、警察との関係など、いろいろありますので、検討させていただきたいと思います。信号を増やすということは、警察としてはなかなか難しいというところもあるようです。

また、例えば横断歩道を渡る時の信号の時間が短いという声もお聞きしているようですが、普通は、1m1秒ということらしいのですが、八潮の場合はその倍近い時間を青信号にしているということです。

今、信号は高度化しており、温度計のように、色がだんだん減ってくるような、要するに信号がもうすぐ切りかわることがわかるものが増えています。そういう信号に切りかえていこうと、今、警察と話し合いをしているところです。すぐというわけではありませんが、まず信号機の更新の必要があると思っています。

それから、波打っているところのバンプについてですが、かつて、警視庁はいろいろなところで試験的にやりました。八潮、区内では旗の台にもあります。現在、道路の法令関係等が変わってつくれない、改修するときは、そのバンプ

をなくさなければならないということです。しかし、それでは直線を飛ばす車が増えるということですので、どこまでできるかわかりませんが、考慮していきたいと思っています。

◆区民B

八潮交番前の歩道の改善、コミュニティバスの運行について

37号棟のところの横断歩道だが、車椅子の人や高齢者にとってはちょっと狭い。交番の角の信号のところ斜めになっているとともに、斜めの部分が点字ブロックになっている。だから、車椅子を押すと、斜めになってしまうので、少し平らにして、見通しよくしてもらいたい。

それから、コミュニティバスだが、八潮から区役所に行くのが一番大変で、大井町から歩くと10分かかる。コミュニティバスを通してもらえると、みんな助かると思う。

2 区長コメント

きのう、現場を見てまいりましたがあれは何とかなないと、車椅子が倒れてしまうことになると思いましたので、今回の改修とはまた別の方法で対応していきたいと思っています。

コミュニティバスについてはいろいろな地域でお声があります。こんなことを言うと叱られてしまうかもしれませんが、八潮はほかのそういうお声が出る場所に比べると、昼間の時間帯はかなりバスが頻繁に出ています。大井町まで行っていただいて、大井町から区役所まで行っていただく、そこからは電車で来られた人も徒歩で来ていただいています。

例えば、小山7丁目とか小山6丁目あたりになりますとバスはなく、東急目黒線の洗足駅に出て、洗足駅から大岡山駅に1駅乗って、そこで東急大井町線に乗りかえて大井町まで来てというところや、港区の境の上大崎あたりになりますと何もないんです。ですから、よくコミュニティバスということを言われます。

ただ、コミュニティバスを走らせているどの区も、区長としては困ったなと思っている。例えば港区のちいばすに乗っておられるのは、私の目で見ると最大で3人です。時間帯によっては5、6人乗っているときもありますが、要するに大変な赤字です。大田区も1路線始めました。大田区長のお話では、利用者が少なく、赤字がすごく膨らんでいるということです。確かにそうです。採算がとれれば民間のバスが走るはずですから。そうではないところをコミュニティバスが走るのですから、赤字は赤字、これはもうしょうがないというふうに覚悟して始めるわけですが、それにしても大変な赤字なのと、1つ通すと、ここもやってほしいということで、どんどんお声が広がっていってしまう。か

なり厳しいのが実情です。ですから、私としては、もちろんあれば便利だということ承知していますが、よくよく財政的なことを考えて実施しなければいけないと思っています。

長くなりますが、走らせると、人件費がかかるものですから、なるべく人件費を節約しようとするとう便数が少なくなる。便数が少なくなると、全然来ない、乗りたいときに乗れないということになると利用者が少なくなる。利用者が少ないと、便数が減るということで悪循環となります。実は1日に2便というぐらいで、2便では全然成り立たないということになり、どこも苦戦しているのが実情です。

ですから、研究はしていきたいと思っています。どうやったら赤字が出ない方法があるのか、もう少し交通の便がよくなる方法はないのかを研究いたしますが、今の段階では難しいかと思っています。申し訳ありません。

◆区民C

こみゆにていぷらざ八潮におけるフリーマーケット用倉庫、八潮リボンの設置、託児室・ラウンジ間の部屋の有効活用、およびコミュニティバスの運行について

こみゆにていぷらざで八潮を活性化するため、フリーマーケットを月1回、一回も休まずに行っているが、あの場所は、正面の高い、長い坂を上るか、階段でなければ行けない場所である。フリーマーケットをやるにしても、荷物の上げおろしがとても大変である。ただ、売れないときは当然持って帰らなくてはいけない。荷物の持ち運び、上げおろしが大変なので、正門の何も使っていないウサギ小屋かプール脇のトイレを荷物の置き場所にしてもらいたい。

また、フリーマーケットを通して、地域における助け合い運動や見守り隊も一緒にやっているが、あの場所には空いた部屋があるようなので、常設の八潮「リボン」ができると、お散歩の行き帰りに寄って、お茶を飲んだり、おしゃべりしたり、助け合いができると思っている。また、入り口の一番いい場所に、1年中カーテンの閉まっている部屋があるが、空いている倉庫や部屋を使わせていただければと思っている。

3 区長コメント

フリーマーケットについては、毎回努力していただき、一回も休まずにやったださっているのは大変ありがたいことだと思っていますが、個人的な荷物をお預かりすることは、こみゆにていぷらざの全ての利用者の方の希望もお引き受けしなくてはならなくなるということもあり、大変難しいことです。サークルで用意して置くというようなことはあるかもしれませんが、フリーマ

ットの品物についてはお預かりは難しいので、それぞれの方が対応していただきたいと思います。

お話のありました、こみゆにていぷらざの部屋は、現在防災備蓄品を置いています。何も一等地にそういうものを置かなくてもいいだろうと思いますので、少し検討させてください。

「リボン」は大井町にあります。粗大ごみで出た家具を補修して売っています。大変人気がありますが、安い売り値で売るためにたいへん人件費がかかってしまっています。したがって、これを拡大するというのは難しい。むしろ、大井町の「リボン」がこれから先、成り立つかどうかという状況です。何とか今、一生懸命維持していますが、拡大というの難しいということをご理解いただきたいと思います。

◆区民D

旧八潮南中学校跡特別養護老人ホームのグラウンドの利用、ダイエー撤退後の施設について

旧八潮南中学校に八潮南特別養護老人ホームができたが、グラウンドは、最近、ほとんど使っていないので、草が生えたり、砂が乾燥したりし、風が吹くと砂煙があがるなど、有効に使っていないと思っている。公園にして、植木を植え、施設の人や我々が交流できる場にするといい。

それから、ダイエーが来年1月で閉店するという話がある。大手の小売店業がなくなると非常に困る。区で力になっていただければありがたい。

4 区長コメント

お話のありましたグラウンドは土が露出し、固まっているようで、周りに確かに雑草が生えているという状況です。利用度は非常に低いというのも承知しています。特別養護老人ホームをつくるときに、実はいろいろなお声が出ました。反対という方もいらっしゃいましたが、特別養護老人ホームをつくるんだったら、こういうことを約束してください、こういう条件なら結構ですという住民の方々の声が非常に強かった。その声の一つに、今までと同じように使えるようにしてほしいというお話があり、当面そういうことでいきましょうということでお約束をいたしました。まだ年数がそれほど経っていませんので、そのお約束を今すぐにたがえることはできませんので、今の状態でしばらくは使っていただくということになると思います。長期的に見て、それがいい活用方法なのかについては、また別途検討していきたいと思っていますので、少しお時間をいただきたいと思います。

それから、グルメシティですが、ダイエーとしては1月いっぱい撤退したいということで、社として決めているようです。あの場所は、URの子会社で

新都市ライフという会社が床を持っていて、ダイエーはそこを借りて営業しているわけです。区としてはライフという会社に、もし撤退なら早急に同じようなスーパーを誘致してほしいということで強く申し入れをしています。ライフとしても今、一生懸命、どこかほかがないかということで交渉しているようです。情報はまだ来ておりませんが、その会社で今、懸命に探している状況です。

共通の悩みですが、大きな団地の真ん中の店舗というのほどこも売り上げが落ちています。今、小売業全体の売り上げが落ちていて、イオンにしろ、イトーヨーカドーにしろ、スーパーでもうかっているところほどこもない。何とか維持しているというので精いっぱいということです。そういうことで、ライフという会社が今、懸命になって探していますので、まずそれを見守っていきたいと思っています。

◆区民E

シルバーセンターの設置について

八潮地域にシルバーセンターを設置していただきたい。区内には地域センターが13カ所、シルバーセンターが16カ所設置されており、1つの地域センター内に1カ所のシルバーセンターがあるということだと思う。

八潮地域は品川区の中でも高齢化率が非常に高いと言われているが、団地開設以来30年以上経過しているが、まだシルバーセンターが設置されていない。高齢者が気楽に集まって交流することで、より健康で、生き生きと暮らせるような八潮地域にしていきたいので、ぜひ環境整備をしてほしい。

場所は、八潮北小学校跡地の空き教室、あるいは、こみゆにていぷらぎ八潮の部屋などを検討してほしい。新しく建物を建てていただく希望は持っていない。

希望の施設については、ほかのシルバーセンター同様、介護予防事業ができる部屋、ほっとサロンができる部屋、カラオケができる部屋、健康室、入浴サービスが可能な設備を希望する。

5 区長コメント

八潮の地域センターは、区内の12の地域センターに比べると格段に大きく、施設的に充実していると思っています。この中にもお年寄りが優先的に使える広間といった空間があります。そこではカラオケも使えます。通信カラオケかどうかというのはありますが、この区民集会所、あるいは地域センターでかなり高齢者の方々がお使いいただける部屋があると思っています。

それから、こみゆにていぷらぎ八潮には、いろいろな部屋がありますから、これからどういう施設としていくか。私は、こみゆにていぷらぎというのは、まだまだ改善する余地があると思いますので、こみゆにていぷらぎ八潮を高齢

者の方々が使いやすい施設としていくということは、中期的な課題になるかもしれませんが、考える必要があると思っています。

しかし、「建物を建てろと言っているんじゃない」ということでおっしゃいましたが、シルバーセンターで特定するということはこれからは少し考えていかななくてはならないかと思っています。例えばシルバーセンターの中でお子さんと交流ができるようなとか、世代による利用を少し緩くしてもいいのかなと思っています。先ほど「品川のまちづくり」の中でご説明しました平塚橋につくる高齢者施設ですが、その中に平塚橋シルバーセンターがあります。これは既に条例に規定しているのですから、また建物を建て直したときにシルバーセンターをつくるのですが、少し多世代を意識したシルバーセンターにしていきたいと思っています。

それから、入浴施設のことをお話になりました。もちろん入浴施設というのが一種の交流の場になることは承知していますが、今あるシルバーセンターの入浴施設は、むしろもう少し切実なことになっています。今、銭湯がどんどん少なくなっていますが、南品川など銭湯が何もない地域があります。そのような方々にとっては、シルバーセンターの入浴施設というのは生活上、欠かせない施設になっています。こういったところについては、浴室は絶対必要だということですが、八潮の場合は皆さんのところに浴室があるわけですので、浴室というのは少し慎重に検討しなくてはいいかなと思います。いずれにしても、全般的に高齢化していくわけですから、いろいろな施設に高齢者に対する配慮を加味した、高齢者の方にとって使い勝手のいい、あるいは使っていて楽しい、そういう施設にしていきたいと思っていますので、それは個々の予算づけの中で対応していきたいと思っています。

◆区民F

トレーニング施設の設置について

トレーニングリハビリ施設を設置してほしい。場所は、こみゆにていぶらぎ八潮もあるが、わかくさ荘の下で、ローソンの上、以前ビデオショップがあったところが広くてよい。現在使われておらず、区や都の施設でもなく、民間のものというお話を聞いたが、そこにリハビリというか、トレーニング施設があればいいと思っている。

高齢化率は、特に八潮が上がっているということです。軽い脳梗塞をした知り合いもリハビリに行きたいが、八潮の中にはない。高齢者医療ですが、介護保険を使うまでもなく、では、どこに行けばいいのか相談を持ちかけられて、ずっと考えていた。これから介護の方が増えていくと思うが、介護をなるべく少なく、軽度のままで終わるように、そしてなるべく区のお金も使わないようにするためにも、トレーニングの場があればいいと思う。

希望する場所は、地域センターや図書館にも近いので、一番いいと思っている。送迎の車も手配にかなりお金がかかるようだ。また、車椅子であれば、車椅子の方だけをお願いできれば簡単に済むのではないかと考えている。

6 区長コメント

トレーニングのお話ですが、お元気な高齢者がずっとお元気でいていただくということは、区役所にとっては非常にありがたいことです。介護保険が、今後、自己負担が2割になることを国で検討していること、あるいは要支援を介護保険から外す検討をしているということですが、介護保険を堅持するためにも、元気な方が元気で居続けていただくことが大事だと思います。

今、本格的なトレーニングではありませんが、例えば「いきいき筋力向上トレーニング」といったものを、こみゆにていぷらざ八潮で実施しています。あるいは「健康やわら体操」だとか、筋力ではないのですが、脳健康教室、健康マージャンなどでお年寄りの脳の活力が維持できるようなこともやっています。こちらの区民集会所では転倒予防の体操などを実施しています。そういうことで、本格的な筋力トレーニングのご意見の趣旨は十分に理解しているつもりですので、既存の施設の中で充実していきたいと思っています。

わかくさ荘の下のところについては、事実関係を把握の上、後日お答えさせていただきますと思います。

(文書回答概要) ローソン上のビデオショップ跡の建物の所有関係については、1階のローソンと2階店舗部分を合わせた429.71㎡を株式会社新都市ライフが区分所有をしており、現在倉庫として使用しています。

また、1階から9階の八潮わかくさ荘・八潮在宅サービスセンター他につきましては、一部共有部分はありますが品川区の区分所有となっています。

◆区民G

在宅避難八潮モデルの構築について

品川区は、大地震が発生した場合、高層マンションの住人は避難場所に逃げるのではなく、できるだけ在宅避難をすることを進めている。自治会として、住民の皆さんに対して、災害発生時にはできるだけ在宅避難するように啓蒙活動を行っている。しかし、大地震が発生した場合には、人が集まっているところに逃げたい、避難場所に行かなければ救援物資が手に入らないのではないかと、身近な情報が家にも入るのだろうかなど、在宅に対する不安を口にする人が多い。この八潮地区は、同じ品川区でも、品川区発行のわが家のハンドブックによると、地域危険度で「総合、建物破壊、火災」では、

5 ランクの1として優良になっており、安全性の高い地域と考えられている。そこで、先に述べたような在宅避難に対する不安を少しでも和らげ、地域の人たちが率先して在宅避難を考えるような、在宅避難八潮モデルの構築を検討していただきたい。八潮地区の住人が一人でも多くの在宅避難をすれば、それだけ他地域から避難者を受け入れることができると考えている。

7 区長コメント

在宅避難は大変重要なことだと思いますし、あるいは、八潮に逃げてくる人もいるのではないかと、そういうときにもきちんと受け入れられるような体制が必要ではないかというお話も出ています。そういう意味では、八潮は地震に強い、だから在宅避難ということで、ぜひ進めていきたいと思っていますし、防災協議会のほうでもしっかりとその辺は捉まえていただいているようですので、個人、そして自治会、そして防災協議会の三者ががっちり手を結び合って在宅避難を進めていただきたいと思います。

今日お手元に配らせていただいた、「高層マンションの防災対策ハンドブック」の目次を開いていただきますと地図があります。色分けがあります。何の色分けかという、例えば10階以上の高層マンションというのは区内に600棟ぐらいあるのですが、その分布をあらわしています。色の濃いところがそういう高層マンションの多いところということで、ごらんいただくと八潮が一番です。そういう意味では、この八潮という地域は、高層マンションの、あるいは高層の建物の一番多いところだということでもあります。

今日、皆様方にお配りさせていただきましたけれども、これは、マンションの管理組合として震災対策をしてくださいということで管理組合用の分厚いものをつくりました。これは個人向けの冊子です。今日、見本として個人向けのものをお持ち帰りいただきごらんいただきたいと思いますが、管理組合用のものもありまして、どちらも品川区のホームページからとることができます。管理組合用のものは、そのまま、自治会が参考にさせていただくことができると思います。

区内にマンションはたくさんありますが、管理組合があるところ、ないところがあります。組合がないところ、あるいは、あっても防災について考えていないところ、そういうマンションに向けて、マンションとして防災対策をとってくださいということで管理組合用のものもつくりました。ぜひ参考にさせていただき、八潮の在宅避難の拡充の一助にさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

◆区民H

八潮学園体育館のカーテンについて

入居当時の28年前、社会教育登録団体を立ち上げ、28年間活動し、最近では、PTA、子供、そのお母さんと一緒に、八潮地区内の体育館でスポーツの活動をしている。

今回のリクエストは、いわゆる3・11後、体育館の電灯が間引かれており、これが非常に暗い。28年前、30才ぐらいの方でいまだに続けている方からも、もう暗くて球が見えないという意見が出ている。ぜひ八潮に光を戻してもらいたい。

まず、間引くのを停止してほしい。ただ、節電は大事なので、LED化であったり、最近、HIDという非常に明るいランプもある。そういったものも長期的には検討してほしい。

それと、白いカーテンについてだが、実は暗幕を閉めてやらなければならないスポーツがある。自宅にも必ずレースのカーテンと、それを覆う、遮断するカーテンがあると思うが、そこで、ぜひ昼間、節電の意味で、電球をつけなくとも、暗幕までは閉めなくても、白とは言いませんが、太陽光が入る、それで十分活動ができるようなものを設置してほしい。

最後に、先日あるスポーツで、この中学生が区の大会で優勝した。ぜひ2020年、八潮から、これを目標に頑張りたいと思う。

8 区長コメント

体育館の暗幕のことですが、早速、教育委員会に指示しまして、照度を回復するように手配をいたしました。とにかくなるべく早くに、バドミントンがちゃんとできるような照度に回復するように指示をしておりますので、いい選手を育てていただきたいと思っております。

9月8日の明け方にオリンピックの招致、開催地が決まりますが、ぜひ東京で開けたらいいな、そこに今の小学校6年生、中学校1年生あたりが活躍できる、そういうオリンピックになったらいいなと願っています。期待しています。品川区としても、区民の運動として、そういうことも展開してまいりました。楽しみにしたいと思っています。

意見交換（再質問等）

◆区民I

こみゆにていぷらぎを管轄する部署について

古物が売れなかった場合の一時倉庫の要望に対しては、他人の品物を預かることはできない、また、「リボン」みたいな店をつくるには、費用の問題がありできないということはわかった。では、できるようにするにはどうすればいいか、役所と民間がお互いに知恵を交換し合

う場所というのがあるのか。他人の物を預からないというなら、私たちが倉庫もちゃんとつくる。それでもだめなのかどうかなど、もっと討論ができるような場所というのが、こみゆにていぷらざにあるのかどうか。また、こみゆにていぷらざは、誰が管理しているのか。いろいろな施設が入っており、貸しているところもある。今後どういうふうにするのかなどの問題もあるので、こみゆにていぷらざの全体を管轄している部署を知りたい。

9 区長コメント

こみゆにていぷらざ八潮の管理については、区の所管と、そこから委託を受けている所管との事務の区分けがあり、正確にお答えしたいと思いますので、後日、文書等で回答させていただきます。よろしくお願いします。

(文書回答概要) こみゆにていぷらざ八潮は、八潮地域の活性化を図ることを目的とする複合施設です。施設の全体の管理については、文化スポーツ振興課が所管していますが、運営面は各々目的別に所管が分かれており、協働推進室や喫茶室については地域活動課、防災倉庫は防災課がそれぞれ所管しています。

お尋ねの施設運営に関する会議体はありませんが、こみゆにていぷらざ八潮へのご意見・ご要望は、区民の声や問合せメールなど様々な機会や方法でいただき、文化スポーツ振興課が対応させていただいています。

◆区民E

シルバーセンター関連について

先ほどの回答を聴き、シルバーセンターというまとまった機能のものは今後あまり考えていないが、個別のいろいろなことができる設備については、今後検討していただけるというお話だと思っているが、そう理解してよいか。

10 区長コメント

毎年、予算編成というものがあります。地域センター、あるいはこみゆにていぷらざ八潮としても予算要求がありますので、その中で、高齢者の使い勝手のいいものが要求として出てきた場合については、一定の判断をさせていただきたいと思っています。来年何をしますということはここでは申し上げられませんが、基本的に、高齢者が使いやすいようなまちにしていくということにおいて判断していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

◆区民J

ダイエー撤退後の施設について

グルメシティが1月で撤退ということで、品川区としては、ライフに新しいテナントの募集を何とかしてほしいと言っているというが、住民としては、ほんとうにスーパーがないと困るので、もう少し積極的に品川区が力を出していただけるとありがたいなと、みんな切に思っている。

1.1 区長コメント

引き続き、ライフのほうには強く申し入れをしていきます。区役所の力で引っ張ってくるのはなかなか難しいのですが、ライフに、団地の方々の切実な声ということでお伝えしたいと思います。